

■ASF培地商品構成及び細胞培養実績例(No.2)

商品名	用途	特長	タン白成分	細胞培養実績例
ASF 101 (RITC571G)	浮遊細胞 増殖用 (主としてヒト)	高蛋白タイプ	アルブミン 1000mg/Q トランスフェリン 5mg/Q インシュリン 5mg/Q	【ヒト】K562、BALL-1、UMCL、MOLT-4、THP-1、Daudi、HL-60、RPMI1788、HeLa、HeLaS ₃ 、KG-1、 ¹⁾ Chang Liver Cell(やや凝集あり)、【マウス】 ²⁾ コンカナバリン刺激マウス(Balb/c)正常脾臓細胞 X5563【その他】NRK、 ³⁾ Vero ³⁾ ニワトリ胎児線維芽細胞(初代)
ASF 102 (RITC578G)	浮遊細胞 増殖用 (主としてヒト)	低蛋白タイプ	アルブミン 100mg/Q トランスフェリン 5mg/Q インシュリン 5mg/Q	【ヒト】K562、BALL-1、UMCL、MOLT-4、THP-1、HL-60、RPMI1788、HeLa【その他】NRK
ASF 103 (RITC571A)	マウス及びマウスハイブリドーマ細胞増殖・抗体産生用	高蛋白タイプ	アルブミン 1000mg/Q トランスフェリン 5mg/Q インシュリン 5mg/Q	【ヒト】K562、BALL-1、HeLa【ハイブリドーマ】SS-1(P3U1)、10H(Ag8-653)、16-8(NS-1)【マウス】X5563、FM3A、Friend、P388D ₁ 、EL-4【その他】MCDK、Vero
ASF 104 (RITC578A)	マ細胞増殖・抗体産生用	アルブミン フリータイプ	トランスフェリン 5mg/Q インシュリン 5mg/Q	【ヒト】K562、BALL-1【ハイブリドーマ】SS-1(P3U1)、10H(Ag8-653)、16-8(NS-1)【マウス】X5563、FM3A、Friend、P388D ₁ 、L929【その他】CHO、MDCK
ASF 201 (RITC609G)	浮遊細胞維持 ・生産用	マンノース 含有タイプ	アルブミン 100mg/Q トランスフェリン 20mg/Q インシュリン 5mg/Q	(ASF101、ASF102、ASF103) 培地適応細胞
ASF 301 (RITC807G)	付着細胞 増殖・生産用	低蛋白・EGF 含有タイプ	アルブミン 100mg/Q トランスフェリン 10mg/Q インシュリン 1mg/Q m・EGF 0.01mg/Q	【ヒト】WISH、Detroit551、HeLa、ヒト胎児肺由来正常線維芽細胞、 ⁴⁾ 慢性関節リウマチ患者滑膜細胞(初代培養)、 ⁴⁾ 変形性関節症患者滑膜細胞(初代培養)【マウス】L、L929【その他】NRK、 ⁵⁾ Vero、ニワトリ胚肝正常細胞

- ・アルブミンは牛血清アルブミンFractionV
- ・付着細胞は、場合によっては付着因子なしでも増殖する例がありますが基本的にはコラーゲン、ファイブロネクチン等の付着因子をコーティングしたディッシュ(市販品もあり)をお使いください。
- ・ASF104はCHO細胞の増殖にも適用できます。
またASF104はCHO細胞等の灌流培養時の細胞維持、物質産生にも秀れた成績を示します。

- 1)北陸大学薬学部 光本先生データ
- 2)東京大学薬学部 豊島先生データ
- 3)北里研究所 鶴水先生データ
- 4)郡山免疫医学研究所 柄崎先生データ
- 5)北里研究所データ

 **コスモ・バイオ株式会社**

〒135 東京都江東区東陽二丁目2番20号

試薬一部(東日本担当) 03(5632)9610

試薬一部(西日本担当) 03(5632)9620

FAX 03(5632)9619

機器部 03(5632)9615

臨床検査薬部 03(5632)9625

FAX 03(5632)9618

業務部(受注・在庫照会) 03(5632)9630

FAX 03(5632)9623

ASF^{培地}104

AJI

#104

ハイブリドーマ細胞用(アルブミンフリータイプ)/RITC578A

特 長

1. 既知成分のみからなる無血清培地です。
2. オートクレーブ殺菌が可能です。
3. 長期保存が可能です。
4. 蛋白成分を必要最少限におさえたアルブミンフリーの低蛋白タイプです。
5. 各種のハイブリドーマ細胞について高い抗体産生能が得られます。
6. 培養生産物の精製が容易です。
7. ロット間の品質が一定でバラつきがありません。
8. 大量培養のしやすい低価格です。

使用方法(調整法)①

本製品は1ℓごと、全量で2ℓの培地調製ができます。
 1ℓ分の調製方法は以下の通りです。

[オートクレーブ殺菌の場合]

1. 主剤1本を再蒸留水で溶解し、全量を500mlにします。
2. 同様に、緩衝剤1本を再蒸留水で溶解し、全量を500mlにします。
3. (1.)及び(2.)をそれぞれ121℃で15～20分間、オートクレーブ殺菌します。
4. 放冷後、このふたつを混合し、均一にします。
5. (4.)の一部、または約10mlの無菌水にて添加剤(殺菌済)1本を溶解し、これを(4.)に加え、全体に均一になるように混合します。(注1)
6. 調製された培地は、冷蔵保存し、必要に応じて使用します。

(注1) 添加剤は完全に溶解しなくとも、均一に分散していれば、主剤、緩衝剤との混合希釈によって溶解します。

[濾過滅菌の場合]

1. 主剤、緩衝剤の各1本を再蒸留水で溶解し、全量を1000mlにします。
2. (1.)を孔径0.2～0.22μmのメンブランフィルターで濾過滅菌します。
3. (2.)の一部、または約10mlの無菌水にて添加剤(殺菌済)1本を溶解し、これを(2.)に加え、全体に均一になるように混合します。(注1)、(注2)、(注3)
4. 調製された培地は、冷蔵保存し、必要に応じて使用します。

(注1) 添加剤は完全に溶解しなくとも、均一に分散していれば、主剤、緩衝剤との混合希釈によって溶解します。

(注2) 濾過滅菌の場合、(1.)の操作で添加剤1本を同時に溶かし込み、1000mlとしたうえで全量を濾過滅菌して調製することもできます。この場合は、蛋白低吸着性のメンブランフィルター(ミリポア製 No. GVWP 04700、ナルゲン製 No. 210-4020等)を使用し滅菌してください。

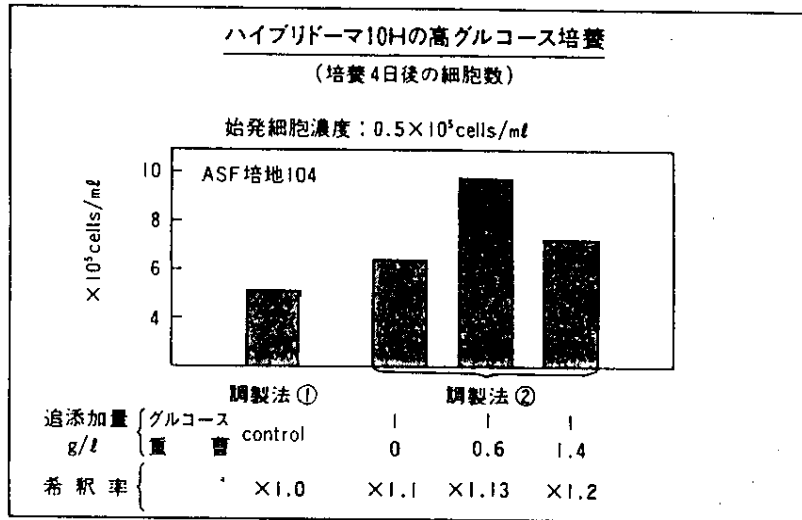
(注3) また濾過滅菌の場合、添加剤のみを蛋白低吸着性のメンブランフィルターを用いて別途濾過滅菌し、(2.)に加えて調製することもできます。

**使用方法(調製法)②
(高グルコース処方)**

AJI #104

浮遊細胞の場合、本培地にグルコース、重曹を別途添加するとさらに良好な増殖がみられることがあります。下記に、マウス×マウスのハイブリドーマ 10Hでの例を示します。

この場合、**使用方法(調整法)①**のそれぞれの調製法にしたがってグルコース(主剤へ)、重曹(緩衝剤へ)を追添加し、最終浸透圧が290mOs/kgになるように培地の希釈を行ってください。(希釈の例は下記参照、なおASF培地自体の原グルコース濃度は2g/l、原重曹濃度は1.8g/lです。)



蛋白組成

← 添加剤に
入っています

トランスフェリン(Human) 5 mg/l
インシュリン(Bovine) 5 mg/l

貯 法

○主剤、緩衝剤は、密栓して保存してください。添加剤は冷暗所に保存してください。

そ の 他

- ASF培地104は、マウス及びマウスハイブリドーマ細胞の培養に適しますが、その他ヒト浮遊細胞、CHO細胞、MDCK細胞等にも適応可能です。
- CHO細胞等の付着細胞に使用する場合は、付着因子(コラーゲン等)をコーティングした培養器を使用してください。場合によっては、付着因子なしで増殖する例もあります。
- ASF培地104は増殖用のみでなく、細胞増殖後の細胞維持・物質生産にも他の培地には見られない優れた成績を示します。特にCHO細胞での物質生産用にはASF培地104をご使用ください。
- 本製品はカナマイシン60mg/lを含みます。

商品構成

粉末培地(2l)調製分

- 主剤(14g) 2本
- 緩衝剤(4.5g) 2本
- 添加剤(殺菌剤)(凍乾バイアル0.54g) 2本

販売者：味の素株式会社

東京都中央区京橋1丁目5番8号

製造者：極東製薬工業株式会社

東京都中央区日本橋本町3丁目1番1号